

平成 31 年度寺田寅彦記念館友の会 総会報告

(文責 山本 健吉)

平成 31 年度寺田寅彦記念館友の会の総会を 4 月 21 日(日)午後 1 時から寺田寅彦記念館で 23 名の参加を得て開催をすることができました。

午後 1 時からの記念講演では、私ども会員で、サイエンスコミュニケーターの楠田純一様に「なぜ、今 寺田寅彦なのか!？」と題してご講演をいただきました。その後、総会を開催しました。開会に際し、高知市教育長様からの祝辞をいただきましたので、ご紹介致します。



寺田寅彦記念館友の会総会 祝辞

「平成 31 年度寺田寅彦記念館友の会総会」の開催を心からお慶び申し上げます。また、友の会の皆様方には、日ごろから寺田寅彦博士の業績を顕彰し、後世に伝える活動を続けられておられますことに、敬意を表しますとともに、本市の教育発展のためにご支援・ご協力をいただいておりますことに、心からお礼申し上げます。

さて、昨年 7 月 24 日に、市民・県民の学びの場である「オーテピア」が開館いたしました。これに合わせて、オーテピア北東側・追手筋に面した場所におきまして、寅彦博士の銅像除幕式が、関係の皆様方を始め、江ノ口小学校の子ども達など多くの方々に御参加いただき、盛大に行うことができました。このことは、友の会や「寺田寅彦の銅像を建てる会」の皆様方の寅彦博士への熱い想いやご尽力に他ならないと改めて感謝申し上げます。

また、友の会の皆様方には、「寺田寅彦生誕 140 周年記念及び銅像完成記念」と銘打ち、講演会や、資料展示、オルガン演奏、科学教室等の様々なイベントを開催いただき、寺田寅彦記念館に訪問していただく機会を創設いただきましたことに重ねて感謝申し上げます。

今後とも、これまでと変わらぬ御協力を賜りますようお願いいたしますとともに、友の会の皆様方の御健勝、御活躍と、今後ますますの御発展を御祈念申し上げます。

平成 31 年 4 月 21 日

高知市教育長 山本 正篤

記念講演

オンライン「寅の日」の取り組みを通して
～今、なぜ寺田寅彦なのか!??～

講師 楠田 純一 様(会員 サイエンスコミュニケーター)

はじめに（自己紹介）

私は、兵庫県で 36 年間中学校の理科の教師として勤務し、2011 年 3 月末に退職しました。1993 年 11 月 23 日に【理科の部屋】を立ちあげました。今のインターネットの前にパソコン通信というものがあ



り、当時は、PC-VAN と NIFTY-Serve がありました。当時、40 歳を超えた時期でしたが、「あのようなパソコンで教育を語るというのは、邪道であり、学級通信などは手書きですべきである」という思いをもっていました。しかし、今もあります「チャット」でワープロの練習をはじめた時、画面の中に自分が打った文字が現れ、そして、不特定多数の方につながり、瞬時にレスポンスがあつて返事が来るのです。それまで、理科の教師として、生徒たちと授業をしながら学んできていましたが、さらに、いろんな新しい情報で面白い授業をしたいと思っていました。その時、姫路近くの福崎（柳田國男の生家があるところ）で姫路の小・中・高・大学の先生と一緒に、理科関係の教師たちが集まり、定期的に理科の勉強会をしていました。しかし、多様な校務のため学校外へ出て行きにくくなり、教材研究や予備実験などは夜遅くするようになっていました。その時、経験したパソコン通信を利用すれば、直接会わなくても情報交換ができるのではないかとということで始めたのが【理科の部屋】です。言い出しっぺが私だったので、いちばん世話になる「世話係」を務めることとなりました。

私と寺田寅彦との接点（強いて見つけると）

1 つ目は、今から 23 年か 24 年前ですが、神奈川のお母さんで「家庭でできる実験」を紹介している『なるほどの森』というミニコミ誌を出しておられた森裕美子さんにはじめてお会いしました。森さんは神奈川の逗子に「世界一小さな科学館」＝理科ハウスを今から 11 年前に創られました。森さんにはじめてお会いしたとき「理科の先生なら、石原純を知っていますか」「石原純は私の祖父です。」と言われ、びっくりするやら恥ずかしい思いをしたことを覚えています。（四宮義正さんが出された『寺田寅彦の光跡を求めて』には、寺田寅彦から石原純宛ての手紙二通、石原純の仕事をまとめた『科学ジャーナリズムの先駆者 評伝 石原純』（西尾成子著 岩波書店）等も紹介されています。）アインシュタインは、1922 年 11 月 17 日に日本に來ています。そのとき各地で相対性理論の講演をされるのですが、それを聞くためにたくさんの方が集まったそうです。その時に、案内役・通訳をされたのが石原純です。日本で最初に相対性理論の論文を書かれた方でもあり、岩波書店『科学』の初代の編集長です。編集長になる時寺田寅彦に相談をしておりますし、素晴らしい内容の寺田寅彦の追悼文を書かれています。

2つ目は、パソコン通信からインターネットになった後、1998年4月25日にホームページを立ち上げました。その時、彼岸花に興味を持っていて、「彼岸花は今」というページをつくり情報を集めていました。通信仲間で友人の伊笠摩耶（いかさまや）本名は山崎昶さんが、「彼岸花を追っかけているのなら、寺田寅彦記念館の庭に白花彼岸花が咲いてたよ。」と7枚の写真を送っていただきました。（1998年9月28日、高知で洪水があった後に、寺田寅彦記念館に来られ、庭を見られたとのこと）「庭だけでなく墓所の下坂道にもあったよ」ということでした。九州に行けばたくさんあるようで、寺田寅彦が熊本へ行っていたということの因縁ではないかと私が勝手な仮説を立てています。このことを知ったので絶対にいつかは寺田寅彦記念館へ行きたいと思い、2012年8月29日に、まだ彼岸花は早いのですが訪問して半日あまり解説をしてもらいました。これが高知の寺田寅彦との初めての接点です。

オンライン「寅の日」とは何のこと

退職してから「サイエンス・コミュニケーター」を名乗っていました。3.11以降寅彦のことが多く報道され、2012年1月に小山慶太さんが、『寺田寅彦 漱石、レイリー卿と和魂洋才の物理学』（小山慶太著 中央公論新社）を出版されました。この本に、私にとってよいことが書かれていました。私は、「サイエンス・コミュニケーター」を名乗りながらも、その意味することを人に問われても応えることができませんでした。その時に下記の文章に出会いました。

「X線回析を唯一の例外として、寅彦は日常身の不思議を古典的物理学の枠内で日本人の視点から追究するという姿勢を最後まで貫き通した。しかし、一方において、西欧で展開される新しい物理学の活発な動きからも決して目を離さず多くの随筆をものにしたのである。」

「科学に関して研究者であると同時に、サイエンス・コミュニケーションの担い手—この面では先駆者とみなせるであろう—としての顔ももっていたのである。」

この部分が私にとって非常に重要な所で、日本における寺田寅彦はサイエンス・コミュニケーターの元祖、先駆者であったということから、寺田寅彦から学ぶことが私のサイエンス・コミュニケーターへの道を決定づけたと思いました。

もう一つ、都合のよい話ですが、下記の文章がありました。

「寅彦は高嶺俊夫と親交を深めるなか面白いことをやっていたようだ。1928年の春頃から、高嶺と寅彦は毎週一度のペースで、二人だけの昼食会を催すことになる。高嶺はこの日を「寅の日」、一方の寅彦は「高嶺デー」と呼んでいた。（中略）学問の話もしたが、それ以外に気楽なテーマもよく話題にのぼったという。“高等遊民”を彷彿させる二人の姿が浮かんでくる。」

そこで、【理科の部屋】の経験から、直接会う事ができなくても、インターネットを介し

オンラインでつながることもできることから、オンライン「寅の日」が実現できるのではないかと考えました。そこで、うたい文句にもなるのですが、『「ねえ君、不思議だと思いませんか？」』を口癖とした寺田寅彦は『ふしぎ！？』の謎解き名人だった。その寅彦は日本の元祖サイエンス・コミュニケーターと呼んでもいいだろう。」と考えました。

今こそ、その寺田寅彦から多くを学びたいと思いました。幸いなことに寅彦の書いた文章はオンライン（「青空文庫」）で、誰でも、いつでも、どこからでも読ませてもらうことができます。そこで寅彦の書いたみごとに文章を一緒に読ませてもらいながら、「私たちにとって『科学』とはなにか。」「不思議の謎解きの面白さ・醍醐味はどこにあるのか」「これからの『科学』はどうあるべきなのか」などをオンラインで多くの人と一緒に学んでいこうということでオンライン「寅の日」を開設しました。

そして、何時やるのか。1週間に1度は忙しいし、1か月に1度は間延びをしてしまいます。そこでこじつけですが、干支の寅の日が暦で12日に1度めぐって来るということからこの日に決めました。「寅の日」は決まっていますので、前もって計画を立てることができます。いろんな配慮をしながらも勝手に始めたことなので、面白くなくなったら止めるということでしたが、7年にもなりました。何を読むかについては、私が決めてきました。「寅の日」の当日は、朝早く起きて、文学館で購入した寅彦カップで寅彦コーヒーを飲みながら、ブログに自分がそれを読んだ感想を書き、全国に発信します。すると、メールや、Facebook、Twitterで返信が始まります。このようにして、オンライン「寅の日」を続けてきました。現在、実施回数219ですが、1回も休まずに続けてきております。

オンライン特番「寅の日」を12月31日（命日）に設定して「日本人の自然観」を読んでいます。この随筆には、寺田寅彦のすべてがここに出ていると思っています。いわば、寅彦の遺言ではないか、80余年の時空を超えたメッセージではないかと思っています。

219回で95編読んできましたが、それを勝手に自分の思いから4つに分類しています。

A 【防災・減災】『天災は忘れられたる頃来る』 9編

日本人の自然観、天災と国防、津波と人間を警鐘3部作と呼んでいます。

B 【科学・科学教育】『ねえ君、不思議だと思いませんか？』 67編

科学者とあたま 研究的態度の養成 雑感（「理科教育」より） 等

C 【俳句】『歳時記は日本人の感覚のインデックス（索引）である』 13編

俳句の精神 天文と俳句 俳諧の本質的概論 等

D 【気象】寅彦の「雲見」！！ 6編

颱風雑俎 茶わんの湯 夕風と夕風 等

「今なぜ、寺田寅彦なのか！？」について、

「今なぜ、寺田寅彦なのか！？」につきましては、自問自答しながら応えてきました。宮英司先生が昨年7月に書かれた『寺田寅彦銅像物語』の中に募金の呼びかけの文章があ

りますが、その中に「今なぜ、寺田寅彦なのか」を非常にコンパクトに、初めて読んだ方にも「なぜ寅彦なのか。」が分かりやすく書かれておりましたので利用させていただきました。

「土佐の寅彦」詣

そして、2012年の8月29日～9月1日の3泊4日で、寺田寅彦記念館友の会のHPを参考に寺田寅彦のゆかりの地を巡りました。これが来高の始まりで、オンライン「寅の日」をやってきた7年間で今回10回目となります。その間、2016年には山田功様から、「寺田寅彦の作品と国語教科書」の話をお聞きしました。教科書にこのような随筆が掲載されていたということをお聞き、教科書に載るということは、スタンダードで誰もが理解しやすく面白ということからそれらを読むことにしました。また、銅像作者の大野良一先生からは、寅彦の提言というものが、芸術分野についても鋭い視点というか参考になることを言っているのだなということをお改めてお聞きいただきました。

これらの訪問を通して、『土佐の寅彦』詣」と称して、必ず訪れるところを「定番スポット」と決めております。

高知県立文学館

一番気に入っているのが、寺田寅彦記念室の3本のビデオです。このビデオは、大変面白く内容も素晴らしいもので、最後は随筆で締めくくられています。以前半日座って何回も見たことがあります。上田壽先生著『新・寺田寅彦断章』の「ビデオ製作裏話」に書かれているように、その当時の最新の技術を使って、コンテンツにしても読みに読み切って制作されておられます。このような本物は、不易です。是非ともお見てください。

高知地方気象台遠隔露場

江ノ口小学校の近くに、「気象台遠隔露場」があります。この施設には、全国33ヶ所にある「ウィンドプロファイラ」があります。四国では高松とここにしかありません。これは高層気象観測をしていますが、これが寅彦と関係があります。ヨーロッパから帰って来た寺田寅彦は、気象関係者に早く高層観測をするようにと先駆者的に言っておられます。実際ここに「ウィンドプロファイラ」が存在するということは因縁かもしれません。この露場で観測が始まったのは1940年4月1日ということです。

寺田寅彦の銅像

昨日9か月ぶりに見ましたが、やはり「来たな」と思います。「リアル」ですね。ちょうどご夫婦の方がおられ、「この方が寺田寅彦ですか」と言いながら写真をたくさん撮られていました。そして、台座の言葉「ねえ君 ふしぎだと思いませんか」「天災は忘れられたる頃来る」がいいですね。そして、ローマ字の最後にある「懐手して宇宙見物」のフレーズが好きです。オンライン「寅の日」の7年間と同じくらいに、毎日「私の宇宙見物」と称して「月」の写真を撮っています。退職してから毎日どの方角にどのような形に見える

かを写真に撮ってきて、初めて、今まで教えてきた月・地球・太陽の三球儀の意味が分かりました。アインシュタインが 100 年前に予言したブラックホールの初画像が先日公開されました。今ものすごく科学が進んでいます、寺田寅彦やアインシュタインが言ってきた科学は、今になって初めて実証されることが多いです。

寺田寅彦記念館

寺田寅彦記念館は「『土佐の寅彦』詣」の起点にしてきました。寺田寅彦記念館友の会の研究会が文学館であったときには、もう 1 日予定をとって訪れたことでした。

墓所

寺田寅彦記念館友の会で墓参りをした時も、離高の日にも高速道路に入る前に墓所を訪れ、「寅の日」を「〇〇回迎えました。」と報告しております。

オフライン「寅の日」

オフライン「寅の日」は、顔を合せて一緒に随筆を読もうという会です。219 回やってきた中で、2015 年 6 月 20 日に 100 回を達成したので、神戸で、現場の教師・出版社の方 5 名で、「オフライン『寅の日』100 回達成記念オフ in 神戸」を開催しました。

すごく面白かったのは、200 回記念で、去年の 8 月 28 日に名古屋で開催し、金平糖を読みました。金平糖について詳しく読み解きたいということでいろいろ調べている時に、おもしろい本を見つけました。金平糖の研究をされている中田友一中京大学名誉教授の『おーい、コンペートー』（1990 年 あかねノンフィクション）で、課題図書にもなって当時多くの方に読まれていたものです。その本の中に、小さい時に「備忘録」を読んでおもしろかったと書かれていました。後に数学を専門とし、金平糖の角がどのようにしてできるのかを春日製菓の工場見学をしながら研究をされて論文を書かれ、金平糖に関わる資料も収集されました。退官された時に、自分の集めてきた金平糖に関係のあるものを「金平糖博物館」と称して愛知菓子会館の中に創られました。オフライン「寅の日」当日、愛知菓子会館に見学させてもらえないかとお願いをしましたが、日曜日ということで断られました。そこで、寺田寅彦の随筆を読んでいる者ですと話す中田友一先生に相談されたらと言われ、連絡を取ったところ快く「金平糖」の話をしてくださいました。参加者の中に東京から一人で参加した中学 1 年生が、金平糖について詳しい話をし、「僕は金平糖を作っているのです」と実際作った金平糖を見せてくれました。中田先生も驚いて、感動していたのを覚えています。是非 300 回達成記念オフも開催したいと思っています。

オンライン「寅の日」のこれから

これからのことですが、京都大学の鎌田浩毅教授が、寺田寅彦の弟子を自称しており、岩波書店『科学』の 2014 年 11 月号に、「寺田寅彦を活用する」ということを書かれています。

「アウトリーチに関する私の修行は今も進行中であり、寺田が残してくれた試行錯誤の記

録は知恵袋となっている。彼の専門と思想を引き継ぐ者として、これからも寺田寅彦を『活用』して行きたいと思う。」

そこで、鎌田先生に見習って、私の「寺田寅彦先生活用法」を開発しようと考えております。このことがこれからのオンライン「寅の日」のテーマです。具体的には、

① 科学をして「正當にこわがる」ため

- ・ 寺田寅彦「防災・減災」十選！！
- ・ フィールドワークとオフライン「寅の日」！！
- ・ その道の専門家と一緒に寅彦を読み解く！！

② 「科学」の面白さ・醍醐味を愉しむため

- ・ 寺田寅彦「科学（理科）教育」十選！！
- ・ この十選を集中して一緒に読むような機会、オフをやる。
- ・ 名づけて「寺田寅彦「科学教育」研究会」少しかたい！？
- ・ サイエンスカフェ「寅の日」！！

（日時、場所、参加者そして）

③ あらたな道楽の「科学」をみつけるため

- ・ 寺田寅彦「気象入門」八選！！
- ・ 寺田寅彦「俳句入門」十選！！
- ・ 俳句結社「寅の日」結成！！
- ・ 「寅の日」で吟行、句会を実施する！！

このために、「寺田寅彦を活用する」と考えています。

オンライン「寅の日」の発展形として、新たな道楽の科学を見つけるところで書いていますが、一番最初に紹介したホームページに、俳句もどきみたいなものをつけています。伊東喜代子さんが本（『寺田寅彦先生と私』）の最後に「寺田寅彦先生と俳句」を書かれておられます。案外見逃しているというか、寺田寅彦の俳句への思い入れについて書かれています。俳句は、理科の教師として極めて納得することができるもので、物事を客観的に観察するということは、俳句の精神に通じると思います。そこで、俳句結社「寅の日」を作ろうと考えています。誰に師事するかというと、それは寺田寅彦先生です。夢としては、俳句結社「寅の日」で吟行に出かけたり、句会をしたりすることが夢です。その第一歩として、サイエンスカフェ「寅の日」を作りました。俳句結社「寅の日」準備会であるとかオンライン「寅の日」だけじゃなくて、日常的に寺田寅彦に関する情報交換をする、喫茶店でお茶をすすめる感覚で、寅彦のことを語り合う会を立ち上げ、とりあえず Facebook 版で全国いたる所にサイエンスカフェ「寅の日」ができることがこれからの夢です。

（文責 編集部）